

奈良の治水 最前線！

いつもの川で、もしもの水害。確かな備えで、大きな安心。

夏は、河川の氾濫などを引き起こすゲリラ豪雨が発生しやすく、台風に伴う大雨災害のリスクも高まる季節です。県では万一の水害に備え、河川の改修や雨水をためる施設の整備といった流域治水に取り組むとともに、正確な防災情報のリアルタイム発信に力を入れています。

県内初！地下バイパス河川 [町並川] まちなみがわ

宇陀市榛原萩原地区は家屋が密集し、歴史的な石積みの護岸もあることから町並川の川幅を広げることが困難。

今夏に
完成・運用
開始



上流から町並川を流れてくる水を地下バイパス河川に分水！
全長730m
流入立坑：深さ25.6m
放流立坑：深さ 5.6m

宇陀市榛原萩原地区では、深刻な浸水被害を解消するため、県内初となる地下バイパス河川工事を進めており、今夏の完成・運用開始を予定しています。これにより、10年に1度の規模の大雨による洪水を安全に流すことができ、治水安全度の向上につながります。

平成4年の豪雨による町並川の氾濫



川幅を広げる [秋篠川] あきのしがわ

奈良市を流れる秋篠川では、薬師寺などの歴史遺産や自然との調和を大切にしながら、大雨による浸水被害から地域を守るための川幅を広げる工事を進めています。県は地域の安心な暮らしを守る川づくりに取り組んでいます。



その1 私たちの街と暮らしを守る 2つの治水事業

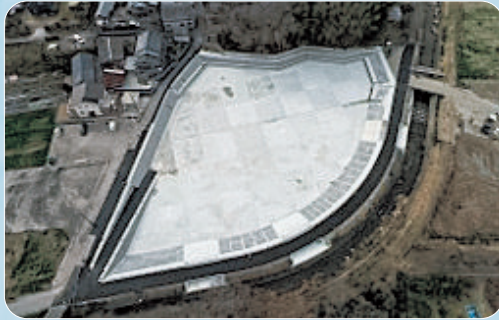
市町が進める雨水貯留施設

その
2

雨水を「ためて」
浸水被害から守る

大雨で川の水位が上がると、川に雨水を流せず街が浸水する「内水氾濫」が起きることがあります。これを防ぐため、雨水を一時的にためる「雨水貯留施設」の整備が、浸水被害の多い大和川流域の市町で進んでいます。これにより、水害に強い安全なまちづくりが着実に前進しています。

「貯留施設を整備した地域では、大雨でその効果を実感した」という声も！



川合調整池（河合町） 貯留量 11,000^m

令和7年度に完成した新たな貯留施設



馬見川左岸流域貯留施設（広陵町）
貯留量 7,500^m



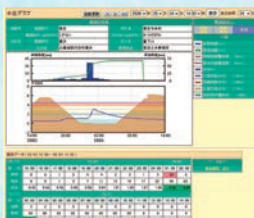
法隆寺北流域貯留施設（斑鳩町）
貯留量 4,500^m

奈良県河川情報システム

その
3

防災をスマホで

リアルタイム水位情報



河川監視カメラ画像



カメラ



観測機器を更新

正確な防災情報をリアルタイムで届けるため、県では観測機器を随時更新しています。

水位計



こちらもチェック！

水害リスクマップ

発生頻度が高い大雨を想定し、浸水の可能性を示したマップ。お住まいの地域の浸水の危険性について確認できます。



近年、全国各地で甚大な水害が発生しており「自分は大丈夫」という油断は禁物です。命を守るため、日頃の備えと早めの避難を心がけましょう。お住まいの地域の雨量や川の状態、カメラ映像が、地図から選ぶだけで簡単に確認できます。

奈良県河川情報システム

危険が迫ったときにはスマートフォンなどへ自動で知らせてくれるメール機能もあります。ぜひ登録を！



詳しくはこちらから